

前歯部審美領域における抜歯即時埋入・即時修復の現状と将来 Current status and future of immediate extraction placement and immediate restoration in the anterior esthetic zone.



Yasuhiro Kizu
木津 康博

医療法人社団木津歯科 オーラル&マキシロフェイシャル ケアクリニック(OMFC)横浜
東京歯科大学口腔インプラント学講座/口腔腫瘍外科学講座

前歯部審美領域におけるインプラント治療の成功には、守らなくていけない重要事項が多くある。抜歯およびインプラント埋入のタイミングや硬・軟組織の再生法そして補綴修復法などである。とくに、前歯部症例では審美回復や硬・軟組織の獲得と長期維持が大切となるため、抜歯即時（早期）埋入と即時修復（荷重）の医療技術が重要となる。

上顎前歯部では、抜歯2週後で薄い唇側骨の吸収が開始すると報告されている。唇側骨が消失した場合、骨再生に必要な骨壁数が減るだけでなく、軟組織の退縮といった審美障害を生じる可能性がある。つまり、唇側と近遠心の骨壁は長期的な軟組織の維持に影響し、さらに、十分な軟組織量の存在は長期的な審美回復に重要であることが知られている。そこで、骨吸収の防止や粘膜量の維持を目的として抜歯即時（早期）埋入は重要な手法となる。その際には、炎症の有無、インプラント体の3次元的な埋入位置、抜歯窩唇側部への骨補填および軟組織の再生と新生には十分な注意を行って治療を行うべきである。また、審美領域では即時修復は患者にとって心理的に重要なこととなる。しかし、即時修復には守らなくてはいけない基準があり、それを怠るとインプラント体の骨結合不良や審美障害を生じる可能性がある。既存骨の骨量と骨質、初期固定、軟組織の量と位置、咬合関係など多くの要素を考慮し即時修復を行うことが重要となる。

今回、前歯部審美領域における抜歯即時埋入と即時修復（荷重）の治療選択基準と術式について解説する。さらに、これらの術式の現状と将来についてもお話ししたい。

【略歴】

- 1993年 東京歯科大学卒業
- 1997年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士授与）
- 1997年～2006年 東京歯科大学オーラルメディシン講座 助手
- 2002年～2003年 カナダ・アルバータ大学ミゼリコルディア病院顎顔面インプラント補綴リハビリテーション科 クリニカル・リサーチフェロー
- 2006年～2019年 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座 講師、臨床講師
- 2008年～ 医療法人社団木津歯科 理事長
- 2009年～2019年 東京歯科大学口腔インプラント学講座 臨床講師
- 2019年～2024年 東京歯科大学口腔インプラント学講座/口腔腫瘍外科学講座 臨床准教授
- 2024年～ 東京歯科大学口腔インプラント学講座/口腔腫瘍外科学講座 臨床教授

【所属及び所属学会等】

- ・日本顎顔面インプラント学会 専門医・指導医・認定研修施設長・運営審議委員
- ・日本再生医療学会 代議員・再生医療認定医
- ・デンタルコンセプト21 (DC21) 会長・理事
- ・オッセオインテグレーション・スタディクラブ・オブ・ジャパン (OJ) 常任理事 他